

「創立60周年記念式典を開催」

経済も政治もまだ混とんとした状況にあった昭和28年3月、福島経済同友会は会員56名で発足、それ以来60年間、規模は小さいものの様々な活動を繰り返してきました。

特に3年前の東日本大震災以降、被災地の経済同友会として各地の経済同友会の支援のもと、被災地の現状や復興の在り方について、あらゆる機会をとらえ全国に向けて発信しています。

無事に創立60周年を迎えましたことは、諸先輩をはじめ会員の皆様の活発な活動の賜物と、深く感謝いたします。

【創立60周年記念式典】

ー3月17日(月)福島ビューホテルー

3月17日「創立60周年記念式典」を開催しました。

第1部は萩谷順氏(法政大学法学部教授・ジャーナリスト)を講師としてお迎えし「アベノミクスのいま」をテーマにご講演いただきました。この講演には会員と一般の方120名が出席、日本の経済状況や国際情勢など分かりやすいお話だったと大変好評でした。

第2部は仙台経済同友会の大山健太郎代表幹事((株)アイリスオーヤマ)と山形経済同友会の熊谷真一

代表幹事((株)シベール)をご来賓としてお迎えし懇親会が開催され、会員60名が参加しました。

懇親会では渡部代表幹事による挨拶、仙台・山形両代表幹事のご祝辞、東山温泉芸妓連による祝舞の披露の後、渡邊副代表幹事の発声での乾杯にて懇談、会員同士の親睦が大いに深められました。

林常任幹事の中締めでは「これからも活発な活動を継続したい」とのお話がありました。



浅倉代表幹事



講師の萩谷 順氏



渡部代表幹事



仙台経済同友会・大山代表幹事



山形経済同友会・熊谷代表幹事



東山芸妓連による祝舞



渡邊副代表幹事



懇親会風景



林常任幹事

【新年懇親会】

ー1月29日(水) ウエディングエルティー

木村 恵司・公益社団法人経済同友会副代表幹事・震災復興委員長(三菱地所(株))を講師としてお招きしての新年懇親会を開催、企業の危機管理と地域防災への取り組みについてお話をいただきました。

当日は43名の会員が出席、講演後は懇親会を開き親睦を深めました。

以下、木村会長の講演録を掲載しました。

【木村会長の講演内容】

○世界における日本の位置付け

IMD(国際経営開発研究所)で発表している2013年世界競争力ランキングによると、日本は24位です。また、都市問題に関心を持ち都市のランキングを作っているPwC(プライスウォーターハウス)の2012年主要27都市間のランキングでは、東京は10位となっています。森ビルさんが行っている調査では4位でして、総合的なランキングはだいたい10位程度がいいところかなというのが我々の考えです。

PwCの指標別ランキングで、東京がアジアの各都市に比べ劣っているところは、「自然災害リスク」で、27都市中27位と最下位と圧倒的に悪い。また起業環境も悪く、ベンチャー企業を立ち上げる環境が整っていない状況が現れています。北京よりは良いですが、アジアのシンガポールや香港やソウルと比べるとかなり劣っている状況です。

東日本大震災の復興は当然ながら進めて行かなければなりません、やはり大都市の防災力を強化していかなければいけないと、PwCのランキングからも言えるかと思えます。これからは堅牢で自立性の高い防災拠点の構築、ソフト面では、自助・共助・公助が相互作用で出来るような考え方が必要です。



講演会風景

講師 木村会長

○環境問題と防災対策

低炭素で省エネ、スマートシティ化を図っていくことも必要です。水力やバイオマス、太陽光などを取り入れながら、再生可能エネルギーをどんどん使っていこうと

いうことです。さらに震災後は、地域として機能を途絶しない、生き残らなければならないという考え方が加わりました。これらを踏まえて「大丸有地区」(大手町、丸の内、有楽町の総称)では、災害が起きても地域として機能するという考え、個々のビルでの防災対策に加え、エリア全体での防災対策、基礎的な防災力の向上を図っています。

30年間で70%の確率で首都直下型震度7レベルが起きると言われています。それに備えて高度な防災都市を形成していくことが必要です。つまり、再開発を通じて、インフラを整えながら防災機能を強化していくとともに、負傷者への対応や、帰宅困難者の対応も含めて、ソフト的にどういったマネジメントをするかということを検討し、BCP(事業継続計画)を確保しようということです。

○都市の競争力向上

安倍政権になり、成長戦略の要として「国家戦略特区」が打ち出されました。これは、国が主導し、トップダウンで民間投資を喚起して日本経済を停滞から再生にもついでいこうというわけです。

一番特徴的なのが具体的な規制緩和で、都市関連では、都市計画決定スピードアップ化や住宅容積率の緩和、公的空間におけるエリアマネジメントの民間開放があります。「岩盤」といわれる規制を出来るだけ緩和していただいて、本当に外国の企業がきてビジネスがしやすい環境を作っていただきたいと思っています。

我々は、大丸有地区の中に高付加価値企業を呼び込み、世界で最もインタラクション、交流が盛んな街にしたいと、以前からエリアのブランド化を図ってきています。

まずグローバル環境の整備があります。

グローバルな人間が共通の認識に立ってビジネスが出来、しかも自国にいるような快適な生活が出来るような都市の実現。それから、交流を活発化して企業人同士あるいは文化人と企業人、いろいろな方が交流出来るような「世界の晴れ舞台」に選ばれる都市の実現。そして企業が垣根を越えて出会い交流することにより新しいビジネスを起こせるようなオープンイノベーション創出都市の実現。これらを実現することで我が国の都市が世界の成長を吸収し、日本の潜在力を開花させ世界から選ばれる創造的産業市場へと導くものと考えています。

○日本の優位性

具体的にお話しますと「成長戦略センタープロジェクト」というのがあります。これは、アジアにおける東京の国際的な地位を向上させることを目的としており、海外の成長企業の誘致をターゲットとしていますが、最

近、非常に大きな動きがあります。シリコンバレーでベンチャーが出来ていると言いますが、今「シリコンバレーから日本に来て起業したい」という企業が相当増えています。なぜ彼らが日本に来るのかと言いますと「何らかの起業をする場合、やはり日本は優位性が高い」と彼らは言います。

何が強みかと言いますと、1つに日本の中にあるビッグデータがあります。

公共・民間のデータや個人の統計に出たデータは、日本が一番豊富です。シンガポールは歴史が浅く、人口も500万人程度しかいませんので「量」がありません。中国も香港も同様です。日本のビッグデータは世界においても遜色ありません。日本のビッグデータを良く分析することで、日本の市場に限らず中国の市場にも新しい商品が送れるのではないかという強みもあります。彼らから

すると、まず日本においてそれだけの強みがあると考え、背後には東南アジアの市場があることから、「日本を拠点にしてベンチャーを起こす」という感覚で今相当日本に来ているわけです。

○さいごに

我々としては、今お話しした国家戦略、都市再生、国家戦略特区などを下地にしながら魅力あるマーケットを自分たちで作っていくべく努力しています。アジアの大都市間の大競争に負けないために、産官学が一緒になって信頼回復、自信の回復を頑張っています。昔1990年代には、東京は3年位の間、世界で一番だったわけですから、その地位を、失われた10年20年を経て何とか取り戻したいと我々もまた頑張っていますので、皆様からのご理解を得られたら良いなと思っています。是非これからもよろしくお祈りします。(文責 事務局)

【主要経済同友会代表幹事による意見交換会】

【東日本大震災追悼シンポジウム】

ー3月10日(月)、11日(火)仙台市ー

3月10日と11日の2日間、仙台市で震災復興に関する会合が開催されました。

10日は東京や関西など全国の主要経済同友会および東北6県の経済同友会代表幹事が一堂に会しての意見交換会が行われ、福島からは渡部代表幹事と阿部代表幹事が出席しました。

日本政策投資銀行設備投資研究所長の薄井充裕氏による「東北地方の経済活性化と成長への課題」をテーマとした意見交換と、宮城県の村井嘉浩知事による講演が行われました。



基調セッション会場

パネリストとして登壇した浅倉代表幹事



第1分科会風景

11日には、今年で3回目となる東日本大震災追悼シンポジウムが、全国の経済同友会会員約300人の参加により開催され、「被災地の産業復興に向けた課題」と題した基調セッション、追悼式典、テーマ別の分科会が行われました。

基調セッションでは福島から浅倉代表幹事がパネリストとして登壇し原発事故の影響を報告、「このままでは震災が風化し、農産物に対する風評被害だけが続くことになる。風評を払拭するためにも安全安心な食べ物と酒が楽しめる福島にぜひ来てほしい」と訴えました。

また、3つの分科会のうち「福島第一原発の現状と原子力災害の克服に向けた課題」の分科会では、菅野典雄飯館村長から「村民の結びつきを存続させるため避難場所は飯館村から1時間以内で移動できる所になっている。今後もあらゆる方法で避難村民の結びつきを存続させたい」との話がありました。

編集日誌

◇今回、タカラ印刷さんの制作の現場を見せていただいた際、皆さんの挨拶が丁寧で雰囲気もとても良く、また整理整頓された綺麗で明るい職場でした。このような素晴らしい環境から新しい“宝(アイデア)”が生まれてくるのだと実感しました。

◇先日、桜の便りが届いている九州へ行ってきました。パワースポットとして有名な高千穂峽を散策し、黒川温泉・別府温泉で湯めぐりをし、日頃の疲れを癒してきました。

◇会報が皆様のお手元に届く頃には福島も桜が咲き始めていると思います。「花よりお酒」の私ですが、県内の桜スポットにたくさん足を運びたいと思っています。おすすめのスポットがありましたらぜひお教えください。(今野)

□会員企業紹介

今回は当会の常任幹事を務めていただいている林由美子氏のタカラ印刷株式会社にお伺いしました。タカラ印刷さんは昨年6月に内閣府から「女性のチャレンジ賞特別部門賞（男女共同参画担当大臣賞）」を受賞しています。この賞は、男女共同参画社会の実現のための機運を高めることを目的として、女性のチャレンジを支援する団体やグループを顕彰するもので、平成16年に創設されました。

今回は、受賞された林克重社長様もご一緒にお話をお聞きしました。

～創業の経緯～

1954年5月（昭和29年）福島市矢剣町に宝印刷株式会社として初代社長林正一が創業しました。今年、福島経済同友会と同じく60周年を迎えます。企業統計によると60年継続する企業は4.1%に過ぎないそうです。今日を迎えられるのも多くの皆様のおかげと感謝しております。

当初は活版印刷工場として、官公庁などの伝票印刷が主な仕事でした。1982年に黒岩へ移転し、同時に活版印刷からオフセット印刷への切り替えも行いました。2005年に現在の渡利絵馬平へ移転しております。

約20年前に医療関連会社様との取引を開始して以来、医療用印刷を事業の大きな柱として手掛けています。

～お客様に寄り添う～

印刷業とは情報を流通させることで社会的責任を果たしていると考えます。情報を加工してお客様の欲しい形にして送り出すために、お客様の思いを共有化し育てていくことを心掛けています。受け身で構えてはただ印刷するだけになってしまいます。一步踏み込み情報に「付加価値」「商品価値」をつけるため、日ごろから様々なノウハウを貯めておき、お客様のためになることを提案できるように努力しています。お客様の思いが伝わるものを作ることによって会社の成果につながると言うからです。

現在、医療品の添付文書・説明書・パッケージ・ラベルの印刷も請け負っています。納める中で「いろいろなパッケージの形態を作ってほしい」「外国語で文書を作ってほしい」など、さまざまな要望に柔軟に対応しています。

昨年、医療機器製造業許可を取得し、お客様のご要望に的確にお応えできるよう進めてまいります。



林会長(左)、林社長(中央)

～中期計画「報・連・相・打」～

会社などの組織運営で「報・連・相」という言葉はよく耳にしますが、報告・連絡・相談だけですとミーティング力が弱いと思い、弊社では相談より強くさらに踏み込んだ「打合せ」の意味を込めて、また戦う意味も含めて「打」を付け加えています。社内の情報を共有化し、社員の知識をフルに活用するミーティング力が高い会社を目指しています。

～働きやすい職場環境～

弊社では、従来から男女関係なく能力のある社員を積極的に登用しています。

例えばパートタイマーの女性を営業課長に起用しています。この社員は、企画などができる将来有望な人でしたが、妊娠を機に退職してしまいました。退職後も在宅の仕事をお願いしたり、子育てがひと区切りしたら戻ってくるようにと定期的に連絡を取ったりしていたところ、その甲斐もありパートタイムとして復帰し、その後パート管理職となり現在は正社員として働いています。

弊社には、社内の誰かが休みでも仕事が止まらないように皆でカバーするチームワークの良さがあります。製造部門が忙しいときは、他部署の社員が手伝いに行くこともあります。社員間でこのようなことは日常的なことなので、これがシステム化されているという認識はしていないと思います。

研修等の機会は、男女やパート・正社員の区別なく与えています。人をみてその人の個性にあった研修を勧めています。そのために1カ月に1度上司が一人一人と面談をしてそれぞれの現状を把握するように努めています。

人を育てることに時間をかけるのは当然のことで、将来につながる重要なことだと考えています。

～タカラモノニュース～

福島で頑張っている人を取り上げ、お客様の「楽しい、ウレシイ」に役立つ情報を目指して発行しています。震災後は復興のために活動している方々を紹介することが多くなりました。

弊社が持っている設備・情報・能力を使い、地域の「宝」にスポットをあて「タカラモノニュース」として発行することで少しでも社会貢献ができればと思っています。

住 所	〒960-8141 福島市渡利字絵馬平86-9
設 立	昭和29年5月10日
従業員数	42名
T E L	024-526-4303
U R L	http://www.takara.inaka.co.jp

